



院内助産「HugMe」をはじめました

助産師が主となりお産の介助と母子のケアを行う院内助産を2021年1月に開設しました。

院内助産では助産師が中心となり、医師と連携しながら妊娠から子育てまでサポートしていきます。

院内助産の愛称は「HugMe」（はぐみー）です。「妊婦さんが自分を愛し、生まれてくるベビー、家族を育み愛し、愛情いっぱいの子育てができるよう、また私たち助産師も育んでいこう」という願いをこめて名付けました。

院内助産「HugMe」では妊婦健診を医師と助産師（助産師外来）で交互に行い、助産師外来では妊婦さんやご家族の意向を尊重しながらお産について一緒に考え、準備をしていきます。またご家族で新しい命の誕生を迎えることを大切にしており、大人2人、小人3人までの立ち会いができることを特徴のひとつとしてはじめました。コロナ禍での開設となり、現在もご家族の立ち会い出産は叶わない状況は続いています。だからこそ、妊婦さんが孤独にならないよう、出産から子育ての始まりをいつも寄り添い、母子の身近な存在となるような支援を心がけています。

これまでに3名の方が院内助産で出産をされました。出産された方からは「院内助産にしたことでお産についてじっくり考えることができ、お産のイメージがわきやすかった。」「出産や出産後の不安が減り、安心して出産やその後に向かっていけました。」「希望どおりの会陰切開なしで良かったです。」などのお声をいただきました。

今後も母子やご家族の希望に応えられるよう愛情を込めた責任のある丁寧なケアを提供していきたいと思っています。

どうぞ院内助産「HugMe」をよろしく願います。

院内助産については
産婦人科外来の助産師へ
お問い合わせ下さい。



Clinical Department

診療科紹介

救急総合診療科

救急総合診療科は2020年4月より新設されました。総合診療、救急医療、集中治療まで包括的に管理することを目指しています。2021年10月現在、3名の医師が所属し診療にあたっています。

救急総合診療科の特徴

一人の患者さんが抱える疾患は一つとは限らず、多くの病気を抱えておられることがあります。また、その重症度も軽症から重症までさまざまです。外来を受診された際には明確な診断がつかないこともあり、入院中に新たな病気を発症することもあります。

救急総合診療科では、多くの病気を同時に抱える患者さん、救命

救急センター・集中治療室での治療が必要な重症患者さんを中心に治療を行なっています。また、救急領域の疾患（アナフィラキシー、中毒、熱中症、低体温、心肺停止、敗血症、外傷など）や重症呼吸不全に対するECMO（エクモ）など専門的な治療も実施しています。

院内迅速対応システム

(RRS: Rapid Response System)

入院中に病気が進行したり、新たな病気が生じたりすることで患者さんの容態が悪化することを「急変」と呼びます。この急変を早めに察知し迅速に対応するシステムがRRSであり、入院患者さんの治療において良好な結果をもたらすと報告されています。

当院でも2021年から救急総合診療科が主導してこのRRSを導入しました。病棟や外来で患者さんが急変された場合には、看護師をはじめとした医療従事者がRRSを起動し、我々が迅速に対応します。

今後の目標

県都松江市の唯一の三次救急病院として、重症患者さんの治療を迅速かつ適切に行えることが重要な使命の一つと考えています。質

の高い治療をいつでも行えるように、日々の研鑽はもちろん、全国規模の勉強会への参加や研究などの学術活動、書籍の執筆にも積極的に取り組んでいます。

COVID-19 流行のため頓挫していますが、国内外の医療機関への研修派遣や研修受入など人的交流も進めていく予定です。

まだまだ小規模な科ではありませんが、仲間を集め少しずつ出来ることを増やしていきたいと考えています。よろしく願います。



当院2人目の特定行為研修を 修了した看護師が誕生

<ひとこと>

ICU・CCU 病棟看護師の野津栄子です。この度私が修了した行為は『栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連』、『呼吸器（長期呼吸器療法にかかるもの）関連』という2つの区分です。

持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正、気管カニューレの交換といった行為を実施します。

それぞれ、患者さんの病状が安定し治癒に向かうことができるよう活動していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



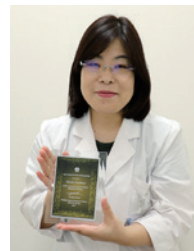
<特定行為研修とは？>

2025 年に向け在宅医療などの推進を図るため医師または歯科医師の手順書による包括的な指示のもと、一定の診療の補助を行う看護師を養成し確保していくために 2015 年に施行された制度のことです。



日本糖尿病協会 療養指導士賞の受賞

栄養課管理栄養士
安原 みずほ



糖尿病療養指導を20年以上担当し、様々な糖尿病患者さんと関わり、食生活のアドバイス等をさせていただきました。これからもチームで協力し、時代のニーズに合わせた活動を続けていきたいです。

※この賞は「日本の糖尿病療養指導の発展に貢献したコメディカル」に与えられるものです。



Clinical Department 診療科紹介 病理診断科



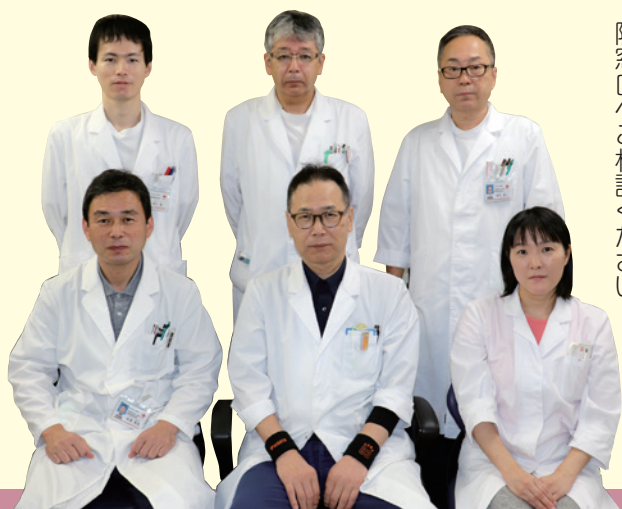
こんにちは、病理診断科です。2004年に病理部という名称で開設し、2014年に病理診断科と名称変更した比較的新しい診療科です。馴染みの薄い印象を拭きませんが、認知に役買ったのは2016年にドラマ化された「フラ

ジャイル病理医の所見」主演 長瀬智也、原作者 草水敏（島根県仁多郡出身）です。コミック漫画は現在も連載中で、当院の病理診断科をイメージしていただければ幸いです。

さて、実際の業務は医師と臨床検査技師が担い、日本病理学会・日本臨床細胞学会認定の病理・細胞診断専門医2名、細胞検査士4名が所属しています。3大疾病の第1位はがんであることから業務も必然的にがんの鑑別診断が大半を占めます。正しい診断と精度向上のために、まずは各科と連携してチーム医療に取り組み、検体（材料）のサンプリングから適切な標本作製に徹します。次に顕微鏡下でがん細胞を直接観察する診断行為を行います。これには専門知識はもとより長年の経験が必要です。診断の基準はWHO分類をはじめ国内の癌取扱規約（専門書）により標準化が図られています。形態診断のみではやはり限界があります。これに付加してがん細胞のバイオマーカーを調べる免疫組織化学染色法を併用することでクリアな診断が可能となり、診断精度がさらに向上することが明らかになっています。近年では、病理標本からがん細胞の遺伝子を解析し、有効な情報（ドライバー遺伝

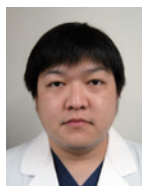
子の存在など）により新しい治療薬（分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬）が適応できるようになりました。いわゆるがんゲノム医療のコンパニオン診断薬です。関連する治療薬は年々、増加の一途にあり、奏功性（治療効果）が高いことで知られています。

病理診断科は正確な診断から適切な治療をサポートする情報を提供しています。いわば医療を支える縁の下の力持ちにたとえることができます。多くの臨床診療科とは様相が異なりますが、歴とした標榜科であり、病理診断のセカンドオピニオンなどを目的に受診を希望されるケースもあります。病理診断についてお困りの方は病理専門医が丁寧に対応しますので病院窓口へご相談ください。



Hello Doctors

9月～10月 採用医師紹介



心臓血管外科

堀江 弘夢

ほりえ ひろむ

一般的な成人心臓疾患には始まり、下肢虚血まで様々な疾患を取り扱っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



救急総合診療科

田中 健一郎

たなか けんいちろう

救急、内科総合診療ともに、質の高い医療が提供できるよう、尽力して参ります。よろしくお願いいたします。



脳神経内科

岡田 直也

おかだ なおや

10月から脳神経内科に赴任しました岡田直也と申します。微力ながら皆様のお役に立てよう努力します。よろしくお願いいたします。



脳神経外科

清水 陽元

しみず きよはる

脳神経外科は脳だけでなく、脊髄、末梢神経など神経全部をみる診療科です。困ったことがあれば是非気軽にご相談下さい。

松江東高書道パフォーマンスの 作品展示

9月に松江東高等学校から書道パフォーマンスで制作された作品をお借りしましたので展示させて頂きました。

1階の出入口からも見えましたので外来患者さんや職員から反響も大きかったです。東高の書道部の皆様ありがとうございました！



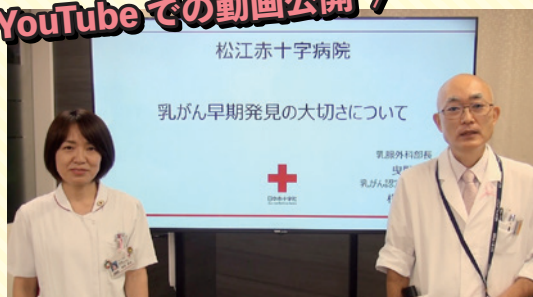


あなたとともに

松江赤十字病院は、
がんと闘い がんとともに生きる
すべての方を支援しています

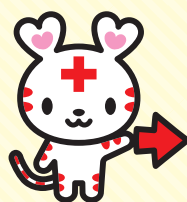
5大がん啓発活動を行います

YouTubeでの動画公開



各がん種の啓発月にスタッフによるがんに関する動画を公開します。

こちらから
ご覧下さい



松江日赤 公式
YouTube チャンネル



啓発グッズの配布



各がん種のイメージカラーを用いたリボンやパンフレットなどを配布します。
(1階ホスピタルモールにて)

【お問い合わせ】

松江赤十字病院 がん相談支援センター
TEL 0852-32-6901
E-mail gan-soudan@matsue.jrc.or.jp

■病院理念……わたしたちは、『人道』の赤十字精神に基づき地域の医療に貢献します。

■基本方針……

- ① 地域の基幹病院として、説明と同意に基づく「高度」「良質」な医療を提供します。
- ② 急性期病院として保健・医療・福祉・介護機関との連携を進め、最善の医療を行います。
- ③ 救急病院として24時間地域の健康を守ります。
- ④ 赤十字病院として災害救護に貢献します。
- ⑤ 教育病院として次世代の医療人を育てます。

＋ 松江赤十字病院 『患者さまの権利』

1. ひとりの人間として人格と価値観を尊重される権利があります。
2. 医療提供者との相互協力のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 検査・治療法などの自分が受ける医療の内容について、わかりやすい言葉や方法で説明を受ける権利があります。
4. 説明を十分理解し同意した上で、医療行為を受けるかどうか自分の意志で選択する権利があります。
5. 医療行為の選択にあたって、他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報、個人の秘密として厳正に保護され、承諾なしには開示されない権利があります。
7. 自分が受けている医療内容を知るために、診療録の開示を求める権利があります。

私たちが、上に掲げた患者さまの権利を尊重した医療を提供するために、患者さまには次のことをお願いいたします。

- ① 自分の健康に関する正しい情報の提供
- ② 医療への積極的な参加
- ③ 病院の規則を守ること
- ④ 研修医、医学生、看護学生などの研修・実習・見学への理解と協力